

# 「神様の計画」

～あなたの計画は壊されていませんか？～

Ⅱ テモ 1 : 7-10

## 私たちの生きる社会は・・・

私たちの生きる社会はたくさんの情報が溢れています。インターネットやメディアで求めている答えがすぐでてくる便利な世の中になりましたが、恐ろしいことに、そのなかで私たちはその答えが本当に正しいか考えたり判断や分析したりする能力を段々と失ってきています。それにより私たちの脳は過去の実績とその時目で見たもの、耳で聞いたものをもとに物事の正しさを判断しようとしたときに、いろんな情報があるとその情報に基づいて右往左往してしまい、真実が分からなくなりなったり的外れした状態で受け取ったりしてしまうようになってしまっています。では、そのように情報を処理しきれなくなった私たちには具体的にどのような症状がでてくるのでしょうか？話しているうちにどんどん話がずれてしまう、同時に2つ以上の情報に気を配ることができなくなる、行動や感情のコントロールがしにくくなる、記憶の置き換えが起こる・・・あなたはいくつあてはまっていますか。

## 私たちの心は・・・

私たちの心は情報によって傷つき疲れてしまうと正しい判断ができなくなってしまいます。その結果「自分にはできない、自分はダメだ」となってしまうことがあります。当然、私たちはこのような状況を嫌だと思いますが、そこから抜け出すことができず劣等感に陥ってしまう場合もあります。世の中では上記のような症状があるとそれを病気、障害という言葉で片付けてしまいます。しかし私たちクリスチャンはそのような症状を薬によらず治すことができます。なぜなら私たちは礼拝のなかで自分の状態をしっかり見つめ、的を外してしまった歩みをどのように修正していくかを神様が与えてくださるからです。私たちには希望がありますが、同時にその希望と現実の差を目の当たりにして苦しんでしまうという現状があります。しかしその状況から目を背けないことが大切です。目を向けるだけでは悩んでしまいますが、その悩みを私たちは聖書から自分の歩みを照らし合わせ、的を外した歩みを修正することができるのです。

あなたは神様からの計画を与えてこの地に生を受けました。ですから例え、世の中のたくさんの情報があなたは何をしてもうまくいかない、できない者だと何年もかけて植えつけてきたとしても、必ずあなたにしかできないことがあるのです。あなたがしなければあなたを通してうまくいくはずのことがうまくいかず、後に続く人たちに影響が出てくるのです。あなたに関わる人たちに良い実を残していかなければいけません。パウロがテモテへ宛てて書いた手紙も難しい言葉を並べてはいますが、簡単に表現すれば「あなたがやればうまくいく、でもうまくいかすためには苦しみに遭う、苦しみに遭わなければあなたが精錬されないからだ」ということを語っています。それは私たちにも言えることです。神様は罰を与える方ではありませんが、私たちが間違った方向に進んでしまっているときは、苦しみの中で自分は的を外していること、間違っているということに気付かせようとされます。それはあなたが大きな痛手を負う前に小さな痛みで正しい方向へ戻そうと神様が苦しみに遭うことを赦されているからなのです。世の中では苦しみに遭ってもそれを問題ないとして過ごしてしまいます。しかし私たちはその問題を無視することはできません。問題が起きたときに神様の与えてくださっている計画に戻るチャンスだからです。イエス様は問題のある人のところへわざわざ行って自らが問題を解決する姿を見せていかれました。ですから、私たちクリスチャンも問題から逃げたり、問題に蓋をして放っておいたりせず、問題と向き合っ

て解決して道を開く生き方を自分自身にも人々にも見せる必要があります。だれも自分ひとりで問題の解決はできません。解決は神様が与えてくださるからです。それを私たちは信仰をもって自分自身と神様と向き合い見出さなければいけません。いっぺんに変われなくとも、あなたの決断であなともあなたのまわりも少しずつ変わることができるのです。神様の計画は苦しみを苦しみでは終わらせません。苦しみに遭ったときこそ、向きを変える計画を知らなければいけません。

## 神様の計画は

1 過ちを犯さないための計画です。(詩篇 119: 67-73) ダビデはサウル王に仕え、荒野を逃げ惑った30年という人生のなかで、神様に頼ること、誤った道から戻ること、悪いことをしたときにごめんなさいと謝ることを学びました。私たちが失敗を犯します。しかし大事なものは自分を見つめ、間違っていたときにはごめんなさいと言わなければいけないということです。自分がしていることが正しいかどうか神様に聞き、もし的を外していたなら戻らなければいけません。

2 欠けのないものとする計画です。(I コリ 10: 13、ヤコブ 1: 2-4) 私たちは神様によって最高傑作、完璧なものとして創造されました。しかし私たちは人と比較したり、自分を卑下したりするなかで自分を欠けだらけにしてしまいました。そんな私たちに対して神様は傷があったとしても心を練る事で欠けのないもの、元の素晴らしい姿に戻そうとされます。そのためには苦しみに逃げず自分と向き合い、神様の元に重荷をおろすこととしていかなければいけません。聖書に夕があり朝があったとあるように、苦しみは苦しみのままで終わることはありません。問題があれば必ずいい方向に解決されます。ですからあきらめず神様に二度と同じ過ちを繰り返さないためにどうしたらよいか聞き、受け取っていきましょう。

## 3 苦しみにある人を慰める計画です。(II コリ 1: 4-6)

もしあなたが、あなたの隣人と同じような苦しみに遭って共感したとしてもそこからは何も生まれません。必要なのは傷の舐め合いではなく、苦しみの解決だからです。その計画をあなたには与えられています。私たちは先に歩んだ者として後に続く人たちにこの時代の問題を解決する使命を神様から与えられています。ですから、あなたが受けた傷を癒しあなた自身の問題を解決し、あなたが元気になって神様の元に帰る特権を得たならば、次に苦しみにある隣人に対する神様の計画を果たしていく必要があります。あなたがしなければ誰もいません、これはあなたに与えられた計画なのです。神様はあなたを通して苦しんでいる人を解決させようとしています。癒されたサマリヤの女を通してサマリヤ中が救われまし。それは彼女の傷を背負って十字架にかかれたイエス様の姿がそこにあります。同じようにあなたの痛みをイエス様は背負ってください。あなたの誤った向きを変えるためにです。悪い状況のときに悪いことを言ったりあきらめたりするのは簡単です。しかしあなたは完璧につくられたのです。あなたがどんな状況にしようと神様に向き合うなら、神様は癒され元に戻してください。

神様の計画からズレてしまっていないか日々確認し、あなたの重荷を神様に委ね、隣人の重荷を負う人生を歩みましょう。

(要約者: 平澤 瞳)